第３回　市民活動促進協議会（第８期）　会議録

１　開催日時　令和４年１月 27 日（木）　９時 30 分～11 時 30 分

２　開催場所　オンライン

３　出 席 者　＜出席委員＞山岡会長、山本副会長、池田委員、大畑委員、片井委員、川村（栄司）委員、川村（美智）委員、木下委員、田中委員、殿岡委員、深野委員
＜事 務 局＞萩原市民自治推進課長、杉山係長、青山主任主事

４　傍 聴 者　０人

５　議　　事

（山岡会長）早速ですけれども、議事に入ります。次第に従いまして、一つ目の議題は「8 年後の目指す姿について」です。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

（山岡会長）ありがとうございます。ただいまのご説明について、ご意見やご質問等ありますでしょうか？
（山岡会長）前回の協議会で行われたワークショップを踏まえて、事務局案としてご提案いただいたということです。この言葉を選んでいただいた理由などを今ご説明いただいたわけですけれども、目指す姿は、ある意味キャッチフレーズみたいなものなので、標語のようなものだと思いますので、選んでいただいた言葉や要素、あるいは、この言葉で表現される方向性などについて、お感じになったことや気が付いたことなどあればおっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか？
（山岡会長）私の印象としては、ワークショップで出たことを丁寧に取り入れて、分かりやすい言葉にしていただいているなと思います。方向性としてはよろしいと思います。「多様」とか「主体」とか、そういう言葉がふさわしいかどうかとか、あるいはもっとより適切な言葉や表現があるかもしれないですね。キャッチフレーズなので、あまり長い言葉は使えませんが、そういう制約の中でも落としてはいけない要素があるのではないかと思います。副題のようなものを追加するということもあり得ると思いますが、印象としては、うまくまとめていただいて、方向性としても良いと感じています。前回ご提示いただいたのが、「より多くの市民が担い手として参加する

まちづくり」ですので、ガラッと変わっているというか、新しい方向性を示せたかなという感じはしております。
（木下委員）おはようございます。前回協議会は欠席いたしましたが、今日の資料を拝見して、ワークショップに出てきているキーワードが、私が参加しても同じことを言っただろうなというキーワードがすごく並んでいたので、嬉しく思うと共に意外でした。直感的には、山岡会長と同じ印象で、ワークショップで出ているキーワードの大事なエッセンスを短い文章にまとめられているなという印象は受けております。言葉として少し気になったのが、「主体」という言葉がどういうものを指すのかが、分かりにくいかなと思います。例えば「人々」としたとき。その思いとして、企業や大学などの法人も含めると、「人々」よりも「主体」という言葉を使うほうが幅広くなるのですが、キャッチフレーズとしては「人々」が馴染みやすいかなと思います。少し行政的な硬い言葉遣いかなという印象を受けました。もう一点、当たり前という状態が、皆さんの共通する思いとしてありますが、このくだけた表現がいいか悪いかについては考える必要がありますが、やはり「あたりまえ」という言葉はしっくりくるのかなと思っております。一方、「あたりまえに支え合う」という言い回しは少し気になりました。
（山岡会長）ありがとうございます。今のようなご意見やご感想で良いので、ぜひここで出していただければと思います。
（山岡会長）「あたりまえに支え合う」という言葉に違和感があるというのは、確かにそうですね。代替案は私も思いついていませんが、「主体」も同じですよね。「市民」でなくあえて「主体」にされているというのは、意図があると思いますが、確かに表現としては硬いかもしれない。「人々」という言葉を使うのも「人々」とはこういうものを指すという説明があれば良いと思います。受け入れられやすい表現を探っていく必要があると思います。ありがとうございます。
（田中委員）事務局案を見た時に、私の手元にこの計画があるなあとすごく感じました。木下委員が言及していた、「あたりまえに支え合う」というところについては、私も気になっています。「あたりまえ」という形容詞がかかるのは活動であって、「まち」にかかってしまうとニュアンスが変わってくるかなと思います「あたりまえ」というキーワードはすごく好きなので、良い形が皆さんとお話しする中で出てきたらな、と思います。
（山岡会長）今のご意見の中で、「自分の中にある」とおっしゃったんですかね？
（田中委員）はい。作られたものでなくて、自分の手元にこの計画がある感じがしています。
（山岡会長）私はそれがすごく大事だと思っています。様々な立場の方がおられるので、「これは私と関係ないな」と多くの市民が思ってしまうと全然意味をなさないものになってしまう。目指す姿について「私達と関係がある」と思えるかどうかはすご

く大事だと思います。要するにカバーできているかどうか。それによって方向性が多少ぼんやりしてしまうことがあっても、私は、それはむしろやむを得ないことだと思います。関係ないと思う人が出ることのほうが問題な気がしますので、そういう意味では、「自分の手元にこの計画がある感じがする」とおっしゃっていただいたことがいいなと思いました。
（山本委員）まず今ご発言いただいた木下委員、田中委員のご意見に被せる形ですけれども、「あたりまえに支え合う」という言葉はなかなか強いというか、義務を強いているようなニュアンスとも取れてしまいます。これを逆にして、「多様な人びとの支え合いがあたりまえのまち」にすると、支え合いを義務にするのではなくて、あたりまえに馴染んでいくということを、支え合いの平均値を上げていくということが目標になるので、すごくいいなと思いました。「多様な人々」についても、例えば人々を「ひとびと」としたらどうかとか、ひらがなにしすぎるのもどうなのかなと思いつつ、考えています。二つ目ですが、「これから厳しい静岡市をみんなで守りましょう」という、保守的な部分が強調されていて、前に進む新しい部分がありません。違う要素を二つ入れるのはなかなか大変だと思いますが、これから若い人達、新しいことをやりたい人たちにとっては今を守る以上のことをやりたいと思いますので、その要素が一個でも入ったら嬉しいなと思います。
（山岡会長）挑戦や創造といった、「クリエイト」の要素ですね。これもすごく重要な意見だと思います。無理に文章の中に入れ込まなくても、副題として取り入れても良いと思いますね。
（深野委員）皆さんおっしゃるところに賛同ですが、やはり「主体」は固いというか、普段の言葉にはあまり使わないかなと思います。例えば主体的にまちづくりをするとか、市民が主体性を持ってとか。多様な主体がといっても、市民が読んだときにこれ誰のことかな？と思ってしまうので、「人々」「市民」などの方が良いかなというふうに思います。「あたりまえに支え合う」というのも、皆さんおっしゃる通りで、ちょっとしんどいなあという感じがします。最後の部分ですが、「まち」は必要でしょうか？今ここに暮らす人々の状態を表現するうえで、目指す姿とするのであれば、あえて「まち」とまとめてしまわなくても良いのかなと思ったりしました。
（山岡会長）「まち」ですね。前回の計画だとまちづくりになっているので、広がった感じはありますが、そもそもなくてもいいのか、あるいはそこに暮らす人たちも含めて「まち」だというような説明が必要かもしれないですよね。
（深野委員）まちづくりとした場合、まちをつくる作業や幸せづくりなどの印象が出てきますが、「まち」としてしまうと、そこで止まってしまうような気がします。まちを出なくていいのかなと。あえて「まち」をまとめなくても、状況を目指す姿とか、支え合うことは当たり前になっているとか。

（川村栄司委員）皆さんのおっしゃる中にも含まれていますが、楽しいという要素が入っていることが大事だと思います。押し付けで役職をさせられているような印象は極力排除して、静岡市の計画ではありますが、よく言われる関係人口ですね。静岡市のことであっても、よその町の人とも繋がって、静岡市のことを気にしてくれている人たちとも連携できる。そのことに、「静岡市って行ってみたいよね」というような楽しさを折り込めないかなと思います。静岡市に行くと楽しいことがある、あるいは、静岡市民が市民活動を楽しそうにやっているから、自分もちょっと入ってみようかなとか、そういう要素があるといいと思います。それから、施策の柱の４本目の「つながる」にも関係しますが、外に向かって開かれていて、外からの人も関わりたくなるような。そしてもちろん地元の人も楽しくやっていけるような、そういうニュアンスを出せたらいいなというふうに思います。
（山岡会長）私も今おっしゃっていただいたことは最初感じました。その時考えたのは、楽しいから当たり前にできるっていうところもあるなということですね。おっしゃるようなことはあるなと思いますので、例えば、先ほど山本委員からご発言あった挑戦的な部分などに、楽しい要素は入ってくるかなとも思いますので、検討の余地があると思います。
（川村美智委員）川村です。今、皆さまの意見をきいて、それぞれに同感しています。ただ、私は多様な主体という言葉を聞いた時に、逆にすごく新鮮に感じました。標語としては、「誰もが」「市民」「人々」という言葉を使いたいけれども、「誰もが」という言葉は難しくて、「私は関係ない」という風になりがちですよね。だから、多様な人が関われるよという意味で「多様な」という言葉は良いと思うし、「主体」という言葉も新鮮に感じていて、「自分で選んで」とか、「自らが」という意味合いが「主」という部分に込められているという印象を持ちました。皆さまがおっしゃるように、ちょっと言葉としては固いかもしれませんが、私は逆にそれが新鮮に感じたところです。
（大畑委員）「まち」という言葉についてですが、表現が少し限定的ではないかという話がありました。しかし、私はそれにこだわりたいなと思っています。静岡は曖昧な部分のある町で、個性が弱いという印象があると思います。そういう意味で、みんなが一生懸命やっているまちだということを表現することに、特にこだわりたいと思います。それと「主体」という言葉について、やはり少し硬いなという感じは私もしていました。それについては、もう少し柔らかい言葉を考えてもいいと思います。
（池田委員）言葉については気になる部分はありますが、前回のワークショップから出てきたことをまとめたものとしては、全体的には頑張ってくださったなという感じがします。実際のワークショップを文字にすることは難しかったと思うので、そういった面では、わかりやすいものが出来上がっていると思います。この案を見たときに気になるのは、具体的にどうやって達成に向かっていくのか？という話と、PDCA をど

うやって回すっていう部分をちゃんと進めていく必要があると思いました。これについては、この先の話になってしまいますが、そこで頑張っていかなきゃいけないなと思いました。もう一点、全体的にやはり「しなやかさ」という要素が薄いかなという印象を受けました。その要素をこの８年後の姿の部分に求めるものなのか、考える必要はあると思います。
（山岡会長）具体的な PDCA に落とし込んでいくというのは、この「８年後の目指す姿」を見て、施策を具体的に考えられるかどうかだと思います。要するに帰ってくる場所になるので、それはすごく大事なことという風に思います。それと、「しなやかさ」という点についてですが、市民が受け取るということを考えた時に、とても大事な要素ですね。ありがとうございます。
（片井委員）この「主体」という言葉ですが、防災などの場面で自分は使ってきた言葉なので特に違和感はありませんでした。逃げる、あるいは自分家族を守るのはあなたですよというような意味合いで、「主体はあなた方です」というような言い方をよくしてきました。皆さんから固い表現だという意見を聞いて、柔らかい表現を考えましたが、なかなか思い浮かばないですね。それと、「まち」という言葉は、様々な意味にとれるものだと思います。静岡市全体である場合もあれば、自分の住んでいるところという場合もある。そういう風に考えると、やはり「まち」という言葉はあった方がいいかと思います。それと、「楽しいこと」というのは絶対必要だと思います。楽しみながら。それも、外部の人が来てくれればよりいいですが、地元の人たち、あるいは街の中の人たちが集まってくるような、そんな形になっていればいいのかなと思います。
（山岡会長）川村委員と同じく、「楽しさ」という要素を入れたほうがよいというご意見ですので、やはりそこは考えていけるといいかなと思います。
（殿岡委員）自分はこのままの案でいいかと思っています。「多様な主体」って言葉の方が色んな意味で使いやすいのと、「あたりまえに支えあうまち」の部分についても、世代をまたいで使える言葉としたら、このままでもいいかなと思いました。また、その次の段階でどう落とし込むかということが大事だと思います。８年後の目指す姿を決めて、後から変更することは可能でしょうか。
（山岡会長）今日ここで意見を出して、それに基づいて、事務局の方で直して最終案として提示していただくと、そんな流れですよね。
（事務局）ここで完全に確定ということではなくて、お話していただいた点を踏まえて次回事務局で案を提示させていただきたいと思います。
（山岡会長）それが最終案として、次回協議会で提案いただくわけですね。
（事務局）そうです。
（殿岡委員）わかりました。

（山岡会長）このままで良いというご意見もありましたけれども、「主体」を「人々」に変えてはどうかという意見もあったり、もう少し柔らかい表現にしたりであるとか、「まち」という言葉はなくてもいいのか、あるいはむしろ残した方がいいだろうという意見もありました。そのほか、「楽しい」「ワクワク」という要素を加えてはどうか。それから、新しいチャレンジをしていく、より良くしていくという「クリエイティブ」という要素を入れたいという意見が出てきたと思います。これまでの意見の中で、山本委員がおっしゃった「創造」「挑戦」という要素、「楽しい」「ワクワク」という要素をどう入れ込むかという点について、少しここで意見交換できたら事務局としてもいいと思います。

（川村栄司委員）現状、コロナという辛い状況がありますが、その前から災害が毎年起きるようになっています。それに伴って、この５、６年間で非常に閉塞感が続いている。それから、先進国の中で日本だけが実質賃金が下がっていると言う状況にあるなど、暗い話が多いですよね。その中で、私たちが市民活動の８年計画を作ろうという時に、先ほどの「楽しさ」という要素だけではなく、そういったものも背景にあるということを前提として、その中で市民活動は、むしろそういった後ろ向きの要素を打ち破っていく要素の一つになるような、そういうスタンスで考えて行ったらどうかと思います。そうすると、結果として一つの明るさということにもなってくるし、先ほど言われた挑戦っていうことにもなってくると。

（山本委員）ワークショップの内容に、「自由」と「自発」というものがありますが、これはとてもいいと思います。「まち」という言葉について片井委員もおっしゃっていましたが、自分の身近な街も静岡全体もっていうのが含まれるっていう意味でいいなと思いました。「支え合い」は前提として入ってきますが、総体として、どのような雰囲気がよいかと考えると、「自由」「自発」など、そういう状態を表す言葉をつけてみたらどうかと思いました。「多様なひとびとの支えがあたりまえの、自由と自発にあふれたまち」など。副題でもいいのですが、副題にしてしまうとその要素が主題の下位に見えてしまうかなとも思いました。

（深野委員）今、私たちが考えているのは、市民活動を促進した結果なのか、促進をする状況なのか？いずれにしても「市民活動」という部分にかかっているので、これから先の８年後の静岡市の様子とかではなく、もう少し市民活動に寄せた、山本委員のご提案のようなものもいいなと思いました。この目標が定まって、その先の柱を立てていきましょう、こういう取り組みをして行きましょうという構造が出来ていくので、良いと感じています。

（山岡会長）結果なのか、状況なのかということですよね。そこは難しいなと思っています。結果であり、状況でもあるといえるかと思います。市民活動は続いていくものなので、８年後で完成して終わるような計画ではないですから、そういう意味では状況だと思いますし、ここで区切っているということであれば、結果という見方もで

きるかなと思います。そういう意味では、自ずとぼんやりしたものにならざるを得ないかもしれませんね。
（池田委員）８年後の目指す姿、一点だけ気になっているのが、「主体」なのか「人々」なのかについてです。この点は、今回実はすごく大きいかなと思っています。「主体」という言葉、自発的という要素が強いですね。次期計画では参加に関するハードルや負担を軽減し、多様な主体が気軽に市民活動に参加することができる環境の整備が焦点になります。一方で、主体性は必要だけれども、ただハードルは下げていくということが、今の時代に合っているかなと考えると、「人々」ですと、どうしても主体性の表現が欠けてしまう印象があるので、８年後の目指す姿としては「主体」がよいのかな、とも思います。ハードルは下げようというのが今の時代だと思うので。「まち」に関しては、山本委員と同意見です。
（山岡会長）言葉が何を表現するか、どういう意味を含んでいるかということを考えると、受け入れられやすいからというだけでは選べないですね。だから悩ましいところですよね。仮に「人々」という言葉を使うとすると、やはり曖昧な部分もありますので、やっぱり「人々」が何を指すのかということはきちんと説明を入れる必要がありますね。そうでなく、池田委員がおっしゃった様に、「主体」という言葉を使うというのもあり得ますね。
（大畑委員）「楽しむ」ということを、４本柱のうち「やってみる」の中に折り込むのもいいんじゃないかと思います。例えば、いろんなイベントをゲーム的、スポーツ的にやるとかですね。
（木下委員）具体的な提案ではありませんが、「支え合い」だけに集約されていいんだろうかという点で、福祉的な要素が強いと感じます。山本委員がおっしゃった「前向きにみんなで作りあげていこう」という雰囲気。それが結果的に支え合いの基盤になると思いますが、現状では「支え合い」だけが入っているという印象を受けます。支え合うだけではなくて、みんなで作っていこうという、前向きな、人々の支え合いと作り合い、そこが並列してあるというのがよいと思います。支え合いだけに集約されている感じがあると、しなやかさが無いというか。クリエイティブという言葉がありましたが、そういった要素を含んだ言葉が入るのも良いと思います。
（山岡会長）「創造」の要素ですよね。「自発」という言葉の中にそういった要素が含まれているとも言えますが、よりはっきりと示すのもよいですね。
この後、４つの柱についても議論を行います。このキャッチフレーズについては、今回の協議会で結論まで出す必要はありませんが、概ねの方向性については確認しておきたいと思います。事務局としては、今までの意見をまとめたうえで再度提示いただくということでよろしいですか。
（事務局）電子メールでご意見いただくというような形もあるかもしれませんが、一度そのような形で検討させていただきます。

また後ほどまとめますが、ここまでのところでは、「共創」「楽しさ」「しなやかさ」「つくりあげる」というワードが主に出てきたものと思います。事務局案の策定にあたっては、こうしたニュアンスを抽出してやっていこうと思っております。
（山岡会長）よろしいでしょうか。それでは、第１の議題についてはこちらで終了とさせていただきます。
（山岡会長）それでは次の議題は「施策の柱の枠組みについて」です。こちらについて事務局から説明をお願いいたします。

【事務局説明】

（山岡会長）私から最初に意見を申しますと、四つの柱の内容はよいと思います。市民活動に関わるいろんな営みがカバー出来ていて、しかも第三次計画から考えても、例えば施策の柱が何か一本足りない、うまくいってないなどといった状況があるとも思われないので、そこは問題ないかなと思います。今回、目指す姿が大幅に変わるということはないですけれども、方向性が少し前回から変わっていますので、ふさわしい施策がしっかりと設定されているかということを見て行くべきではないかなと思います。
（山本委員）概ねよろしいと思いますが、新しい８年後の姿に変わるのであれば、田中委員が「私の目標のようだと思える」と言ってくださったように、Ｉメッセージで語れるという点にこだわってみたらどうかと思います。「知る」という１本目の柱が、断じているような印象があります。１本目の柱が「知る」ではなく「触れる、楽しむ」。市民活動には、楽しむだけでないシビアなものもあるので、まずは触れる、楽しむがよいと思います。二つ目の「やってみる」については、誰の目線か明確でないため、「動き出す」ではどうでしょうか。三つ目については、私が深まっていく、私の活動が深まっていくということで、このままでもよいと思います。最後については、「つながる」だけでもよいとは思いますが、まちに関わることなので、最終目標は変わることだと思います。良い方に変化しているので、つながるだけでなく、つながった結果「変わっていく」という要素を表現したらどうかと思います。
（山岡会長）現行の柱とカバーしているものは同じかもしれませんが、表現を変えることで見えてくる要素が変わってきますね。
（田中委員）山本委員の話を聞いて、自分が主体であることがはっきりするような柱になる気がして、とても良いと思いました。
（川村美智委員）山本委員のアイディアもすごく良いと思って伺っておりました。その上で、やはり前の計画でどこが難しかったか、そういった分析を事務局にお願いしたいと思います。方向性としては山本委員のご意見がとても良いと思いますが、この

何年間で社会が大きく変化しているということもありますので、現状の課題はしっかり把握して、それを政策に入れ込んで欲しいと思います。
（事務局）検証については、令和３年度の結果が出た段階で第三次計画の検証という形でお出ししたいと思いますが、計画づくりでも必要な部分もあると思いますので、その前にお示しできるものがあればお示ししたいと考えております。
（山岡会長）計画の策定と同時に検証もしながら、数値も含めて様々な部分を見つつ、施策を作っていく必要があるということですね。
（池田委員）私も四本柱の最後、「つながる」の部分が気になっておりましたので、山本委員がおっしゃるように「変わる」が入ることで具体性が出てくると思います。一方で、それだけではどうしても踏み込みきれない部分もあります。例えば自治体を見ても、コロナが要因だと思いますが、IT 化が急速に進んできている。自治会の皆さんとお会いすると、もう LINE でやっているというお話が出てきたりします。変化のスピードに対応するためにも、計画に具体性を持たせる必要があるという中で、四本柱の今山本さんがおっしゃったように、「触れる、楽しむ」「動き出す」「深まる」「つながる、変わる」まで踏み込んでも良いと思いました。
（深野委員）「つながる、変わる」の「変わる」は、「変えていく」でも良いと思います。行きすぎかなという懸念もありますが。方向性としてはすごく良いと思っています。
（山本委員）「変えていく」についてですが、市民自身が動いていくことを前提に考えています。
（川村栄司委員）事務局に質問ですが、川村美智委員がおっしゃった三次計画の分析については、まだ終わってないとは思いますが、本来、次の計画を立てる時は前の計画の分析から入るのが定石だと思います。三次計画の結果に関する報告などはあるのでしょうか。
（事務局）スケジュール上、令和３年度の結果が出た時点で、ご報告をさせていただいた上で計画に反映して行きたいと考えておりました。その前の段階でも、計画の参考にしていただく必要があると思いますので、お示しできる部分については随時お示しして行きたいと考えております。
（川村栄司委員）分析については、一番最近ではいつ頃のものがあるのでしょうか？
（事務局）中間目標値の検証がございました。数値を中心とし、昨年度の協議会で検証を行い、答申として出していただいております。この答申については、またご提供いたします。
（川村栄司委員）よろしくお願いします。
（木下委員）山本委員がおっしゃった四つの言葉に変換するのはとても良いと思います。柱の４本目を「変わる」としたとき、「やってみる」「動き出す」「深まる」「つながる」の流れの中で、「深まる」の部分が凄く変わります。第三次計画では組

織基盤としての側面が強かったですが、今回の変更によって、行政からというよりも、市民間で市民活動団体を支えるという方向性になっています。柱の１本目と２本目では、市民が市民活動に触れて、参加していくという流れの中で、市民自身が主体となっていく段階を示していると思いますが、それを前提とすると、「深まる」という言葉があまりしっくり来てないですね。段階としてのイメージはわかりますが、施策に落とし込もうとした時に、「深まる」をサポートするということになるので、そこに違和感があります。例えば「深まる」だけじゃなくて「広がる」等が考えられます。
（山本委員）おっしゃることはすごく分かります。でも、私としてもいい言葉が出てこないですね。事業としても組織としても手立てが増えて、社会的にしっかりと立ち上がるというか、Ｉメッセージから、We・Usのメッセージにどんどん変わっていく。それに社会的責任も伴うことで、信頼が「深まる」なのかというと、確かに違和感はあります。「広がる」を入れるのは良いと思いました。
（川村美智委員）先ほど申し上げたように、第三次計画でうまくいかなかった部分というのは、数値目標を達成しなかったとか、そういう部分ではなく、仕組みとしてどうだったのかなどです。政策を考えていくと、「行政として何ができるのか」という発想が常に無いと空疎なものになってしまうと思います。四つの柱は良いと思いますが、ではこの８年間、行政として、何をして行くかというところをちゃんと背景に持った上で考えていただきたいなという意味で申し上げたところです。
（山岡会長）今までの経緯の中で計画を策定していく必要があるということについては、川村栄司委員からもご指摘があったところです。第７期で答申を出しているので、第８期から参加されている方々はご覧になってない可能性もあると思います。答申の際、コロナの影響が大きかったために、数値だけでは判断できない部分もありましたので、その辺を考慮すべきという内容だったと記憶しています。
（深野委員）その点で言うと、コロナウイルスの影響によって、前年対比で実績数値が減ってしまっているわけですが、数値が増えたから市民活動が促進されたかどうか判断できるのかという根本の課題があります。数値だけでなく、もう少し突っ込んだ指標の設定が必要ですよねというお話は前期でした記憶があります。今回の促進基本計画を作るという場面において、何があれば市民活動がより活発になっていくのかで、行政のスタンスとして、行政が主導するのではなく、あくまでも市民が主体的に動くことを後ろ支えするというスタンスを明確にすることも大事なのかなと思います。
（大畑委員）先ほどの「深める」についてですが、やはり広がりがなければいけないなと思いますね。
（池田委員）「広がる」という話が出ましたが、柱の３については、気運を高めるという意味で用いられていますが、「深める・広がる」として柱に入れるか、それとも

サブタイトルで細くするレベルでとどめておくのかという話だと思うので、個人的にはもっと踏み込んでいいなと思うので、深める、広がるという二本立ての柱にしても良いのかなと思いました。
（山岡会長）二本立てというのは、現状の「深める」を「深める・広める」とするということでよろしいですね。各柱の中で多少の重複はあると思いますが、それはあっていいかなと思います。
（山本委員）言葉がだんだん整ってきて、何に重心を置くかが変わってきている気がしますが、「気運を高める」とか、「異なる組織や世代をつなぐ」という言葉からは、市自身が、支援することによって、市民に作用されて変化していく・育っていくというニュアンスが足りていないと思います。パイロット事業などで小さく政策に盛り込まれたものもありますが、醸成して行くと、施策自体が変わっていくっていうのが、私が「変わる」に込める意味だと思います。行政と市民は相対するものではなく、繋がりあって、より良く変わっていこうというニュアンスがはっきりと出てくると、今期の柱を変えた意味が出てくると思います。
（山岡会長）ありがとうございます。当然、そこが変われば、説明も変わりますよね。おっしゃる通りです。例えば最後の「つながる」が「変わる」になれば、つなぐ取り組みの支援だけでは終わらないわけですよね。そこまで含めた表現にしないといけないと思います。いかがでしょうか
（深野委員）その意味では、今は計画の方向性について色々と議論しているわけですが、それを実現するために行政として何ができるかっていうのが、この計画の体系に記載してあるものですよね。市民が変わるのであれば、市としてはその変わることをこのようにサポートする、このように制度化する、あるいはこのように仕組み化していくよというところを書き込んでいく。そういった作業になると理解していますが、そうすると、これから大きくこの施策の部分も変わる可能性があるということですね。
（事務局）はい、施策を変えるということはもちろんではございますが、基本的な部分につきましては、条例中に定めがございます。 市民一人一人の市民活動の参画に関すること、市民活動の自立を支える環境づくりに関すること、協働事業の促進に関すること、前３号に定めるもののほか市民活動の促進のために必要な事項というように、本計画で取り扱う事項が定められておりますので、この表現の範囲において施策を組み立てていき、計画に反映させるということでございます。
（山岡会長）計画は条例に基づいて作られているということですので、改めてご確認いただければと思います。条例の定める事項に照らし合わせても今、ここで議論されていることは、ちゃんと当てはまっていると感じます。そうすると、やはり、柱の表現が変わることに伴って施策も少し変わってくるだろうということであれば、次の協議会の中で扱うということでよろしいでしょうか。

（事務局）そのような形で進めさせていただきます。
（山岡会長）それでは、この議事についても、以上で終わりにしたいと思います。本日の議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しいたします。

会議録署名人

会　長